

協働を考えるシンポジウム報告書

(平成 24 年 2 月 15 日開催)

西東京市市民協働推進センター

項 目

- 1 . 開催概要
- 2 . 案内チラシ
- 3 . 基調講演・パネルディスカッションの発言要旨
- 4 . 基調講演レジュメ
- 5 . 写真
- 6 . アンケート抜粋(要約)

1. 「協働を考えるシンポジウム」(開催概要)

1、開催趣旨

市民協働推進センターでは、協働について市民の理解と認識を深めるために、『協働を考えるシンポジウム』を開催する。3回目となる今年度のシンポジウムでは、西東京市における行政と市民活動団体との具体的な協働取組み事例を通して、これまでの成果・実績を共有するとともに、今後一層の協働の推進を図るうえでの解決すべき課題なども検討する。

2、開催概要

日時 12年2月15日(水)14時~16時30分

会場 西東京市保谷庁舎4階研修室

式次第

14時00分	開会挨拶
14時05分	第1部 基調講演 手塚明美さん (藤沢市市民活動推進センター長) 演題 『市民の力で、協働のまちづくりを』
14時45分	休憩
14時55分	第2部 パネルディスカッション コーディネーター 手塚明美さん パネリスト 西東京自然を見つめる会・中村 賢司さん みどり環境部みどり公園課長・高井 譲さん でこぼこ副会長・池谷 悦加さん 教育部教育支援課長・西谷 しのぶさん 協働コミュニティ課長・浜名 幹男さん (注 と、とは、協働のペア)
16時30分	閉会挨拶

3、参加者数

市民参加	28名
行政職員参加(近隣市含む)	20名
(合計)	48名)

以上

西東京市における行政と市民活動団体との具体的な協働の取り組み
事例を通してこれまでの成果・実績を共有化するとともに、今後一層
の協働の推進を図るうえでの解決すべき課題なども検討します

協働を考える シンポジウム

～ 市民の力で協働のまちづくりを ～

日時 2月15日(水) 午後2時～4時30分
場所 西東京市保谷庁舎4階研修室

第1部：基調講演 「市民の力で協働のまちづくりを」手塚明美さん

手塚明美さん プロフィール

藤沢市市民活動推進センター長。1951年群馬県生まれ、神奈川県藤沢市在住。1998年NPO法の制定をきっかけに、地域活動と社会教育活動の経験を生かし、NPOの支援を通じたまちづくり団体である藤沢市市民活動推進協議会の創設に参画。2001年より藤沢市のNPO支援センターのセンター長を務める。NPO支援のあり方を柱に、情報収集と発信を進め、最近では非営利組織のマネジメント支援、ソーシャルビジネスの起業支援に取り組んでいます。

第2部：パネルディスカッション

コーディネーター 手塚明美さん

パネリスト

- ・中村賢司さん(市民活動団体・西東京自然を見つめる会)
- ・池谷悦加さん(市民活動団体・でこぼこ)
- ・高井譲さん(西東京市みどり公園課長)
- ・西谷しのぶさん(西東京市教育支援課長)
- ・浜名幹男(西東京市協働コミュニティ課長)

申込方法 電話・FAX・Eメールで、2月13日(月)までに、住所 氏名(ふりがな)
電話番号を明記のうえ、西東京市市民協働推進センターゆめこらぼ「協働を考える
シンポジウム」係へ。 電話 042-497-6950 FAX 042-497-6951 (裏面の
FAX送信票をご利用ください) Eメール yumecollabo@ktd.biglobe.ne.jp

主催・問い合わせ先

- ・西東京市市民協働推進センターゆめこらぼ(電話 042-497-6950)
- ・西東京市協働コミュニティ課(電話 042-438-4046)

3. 基調講演・パネルディスカッションの発言要旨

第1部：基調講演「市民の力で協働のまちづくりを」

手塚明美（藤沢市市民活動推進センター長）

日本人に備わっていたNPOの考え方

「市民の力で協働のまちづくりを」というタイトルで、私が連想するのは江戸の町だ。NPOや市民活動は、海外からの輸入物だと思われがちだが、実はそうではない。ペリーが日本に来航した際、その町並みのきれいさに驚いたという逸話がある。それはなぜかと言うと、江戸の庶民には、自分たちの町は自分たちでつくるという考え方があったためだ。だから、幕府に命令されるでもなく、下水道を整備したり、当番を決めて交番を設置したりしていた。

この考え方はNPOや市民活動の理念と精通する。みんなで相談しながら課題を解決するという仕組みは、江戸時代の互助組織もNPOも変わらない。近代化の流れの中で忘れられていただけで、日本人にもともと備わっていた考え方なのだ。

協働の始まり

公共サービスの領域は大きく変化しつつある。明治時代の文明開化以降長い間、公共サービスと行政サービスは同じものだった。つまり、身の回りのことは全部行政にお任せ状態ということである。松戸市の「すぐやる課」はその象徴ではないだろうか。しかし、社会が複雑化し、公共サービスに対する需要が拡大すると、行政だけではそのすべてを担うことができなくなった。そこで、NPOや企業が公共を担う必要が出てきた。ここで登場するのが協働という考え方である。

協働とは、「複数の主体が、何らかの目標を共有し、ともに力を合わせて活動すること」である。協働をうまく進めるには、お互いをよく知ることが大切だ。目標を同じくする主体同士でも、そこに至る手段が異なる場合が往々にしてある。だから、お互いに何を目的とし、相手に何を期待するのかをきちんと示すことが必要になる。そして、それぞれのニーズが交差するところに協働が生まれるのである。

正のスパイラルで協働の活性化を

協働は、「認知」・「理解」・「共感」・「参画」・「満足」・「開示」の6つのステップを繰り返すことで進んでいく。「認知」と「理解」は上記の通り、お互いを知って分かり合うことだ。次の「共感」で、感情を共有することが後のステップで大切になる。そして、お互いの「参画」で活動し、その成果に「満足」する。さらに、成果を社会に「開示」することで、その活動を「認知」した人が、次なる協働の担い手になっていくのである。

NPOは社会的にはマイノリティな存在である。したがって、協働といってもできるのは、小さなことかもしれない。しかし、小さな満足の積み重ねは、大きな満足につながる。協働を活性化するために大事なことは、6つのステップを繰り返し、正のスパイラルを生み出すことではないだろうか。

第2部：パネルディスカッション

コーディネーター 手塚 明美 さん（藤沢市市民活動推進センター長）
パネリスト 中村 賢司 さん（市民活動団体・西東京自然を見つめる会）
池谷 悦加 さん（市民活動団体・でこぼこ）
高井 譲 さん（西東京市みどり公園課長）
西谷 しのぶ さん（西東京市教育支援課長）
浜名 幹男（西東京市協働コミュニティ課長）

中村 賢司 さん：自然を見つめる会は、西東京市内の公園や緑地の整備などを通じて自然環境の維持管理に務めている小さな団体だ。自然豊かな場所を紹介する「みどりの散策マップ」作りや、市民が推薦した市内の木から50本を選んで表彰する「西東京市の木50選」という企画を市と協働で行っている。市には予算とともに、広報などで協力していただいている。

我々は趣味の団体で、これまで協働など意識せずに活動してきた。好き勝手にやってきたことが実は市民に還元されていた。これも一つの協働の形といえるのではないだろうか。

高井 譲 さん：協働は、単純に経費の節約など市の負担が軽減されるとはかぎらないし、市民活動団体との連絡や調整にかかる労力は決して小さくない。しかし、市民の意見を取り入れて行う事業は実りも多く、今後とも継続して協働を進めていきたい。

池谷 悦加 さん：でこぼこは、発達障害児を持つ家族支援の会である。家族同士で交流し、日頃の悩みなどを話し合っている。平成22、23年度には、「西東京市NPO等企画提案事業」を受けて発達障害児の子育てについて講演会を開催した。市との協働事業であること、また社会福祉協議会の後援が得られたことで信頼感が増し、多くの市民に参加していただくことができた。

活動の継続には、人手や予算面で大きな労力がかかる。助成金や補助金をはじめとした行政からのバックアップは市民活動団体にとって非常に重要なことだと思う。

西谷 しのぶ さん：教育支援課は平成22年度に教育指導課から独立した課で、教育センターでの相談業務および発達障害児などへの特別支援教育を所管している。通常の学校に通う発達障害児への対応はデリケートな問題だ。両親の中には、自分の子どもに発達障害があるということを認めることが困難な場合もある。

一人一人の個性に応じた教育を実施するには、市民活動団体との協力が必要だ。「でこぼこ」さんとは、今後ともよいパートナーとして付き合っていきたい。

浜名 幹男：協働コミュニティ課はできて2年の新しい課である。今年度は、西東京市に避難されている東日本大震災の被災者を対象とした交流会を、あるNPOと協働で開催した。そのNPOからは、市民目線でアイデアをいただくことができ、協働で実施したことにより、有意義な会になったと思う。

今後の課題は、市民協働推進センターとともにNPOのネットワーク作るなどして、一つずつ実績を積み重ねていくことである。

4. 基調講演レジュメ



市民の力で 協働のまちづくりを

特定非営利活動法人 藤沢市市民活動推進連絡会
理事/事務局長 手塚明美



エコでボランティアな江戸の町

「ものを大切に最後まで使いつくす」

- ・徹底した修理と究極の再生
- ・葉を生活用品として活用し、腐っても肥料に、燃やして灰になっても利用し、土へ戻す。

「つながりを大切にした社会」

- ・互助組織（五人組・隣組） 共助組織（結）
- ・町火消（消防隊を組織・町内の力仕事など）
- ・自身番（地元住民が交代で役割を担う）

**お金ではない大事なものが
当時の社会を動かすエネルギーだった**



小さな政府と地方分権

・小さな政府

政府・行政の規模・権限を可能な限り小さくしようとする思想または政策である。

政府の福祉支出を低所得者向けの最低限のものだけに限定して残りをボランティアや民間保険に置き換え、アメリカ並みの小さな政府とすることが望ましいとする意見もある。

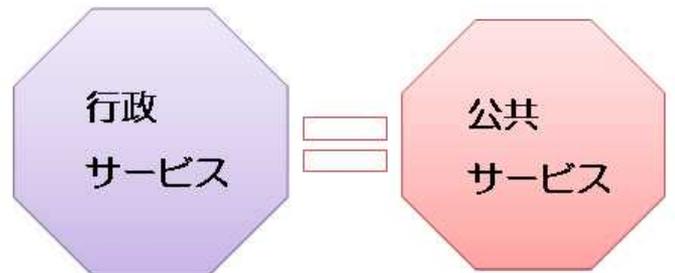
・地方分権

政治・行政において統治権を中央政府から地方政府に部分的、或いは全面的に移管する事を指す。

対義語は中央集権。



今までの公共サービス



公共サービスの担い手



協働

・複数の主体が、何らかの目標を共有し、ともに力を合わせて活動すること。

コラボレーション (collaboration)
パートナーシップ (partnership)

・補完性

相互にお互いの不足を補い合い、ともに協力して課題解決に向けた取り組みをする。

協働した方がサービス供給や運営上の効率が良いとされる場合に取り組む。



西東京市の場合

市民活動団体との協働の基本方針

—多様な主体による地域の課題解決に向けて
平成20年2月 西東京市



西東京市市民参加条例



協働の約束例

「横浜市における市民活動との協働に関する基本方針（平成11年3月）（横浜コード）」より

- (1) 対等の原則（市民活動と行政は対等の立場にたつこと）
- (2) 自主性尊重の原則（市民活動が自主的に行われることを尊重すること）
- (3) 自立化の原則（市民活動が自立化する方向で協働をすすめること）
- (4) 相互理解の原則（市民活動と行政がそれぞれの長所、短所や立場を理解しあうこと）
- (5) 目的共有の原則（協働に関して市民活動と行政がその活動の全体または一部について目的を共有すること）
- (6) 公開の原則（市民活動と行政の関係が公開されていること）

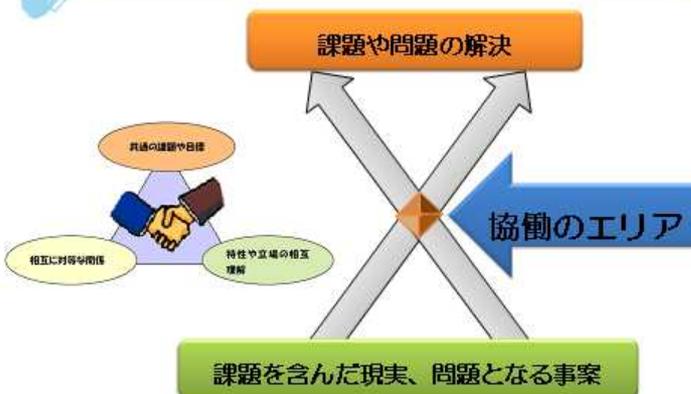


協働の方法の例

- (1) 補助・助成（資金支援）
- (2) 共同運営
（協定書等により役割分担が明確）
- (3) 委託（契約書による事業の委託）
- (4) 後援（名義貸し後援による信用の付与）
- (5) 情報交換・コーディネート等
（協議会・検討会等の設置、実行員会等）



協働事業のエリア



「参画のはしご」(ロジャー・ハート)

ユニセフ 協働と子ども発達センター(イタリア) (1992年)

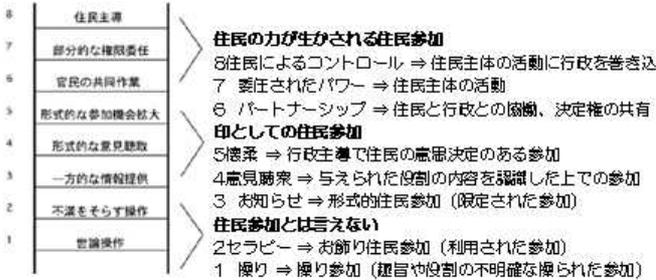


8. 子ども主導の活動に大人も巻き込む
7. 子ども主導の活動
6. 大人主導で意思決定に子どもも参画
5. 意見提供を求められる参画
4. 与えられた役割の内容を認識した上で
3. 形式的参画 建前・名目参画



「住民参加のはしご」の8段階

住民参加の梯子 (A Ladder of Citizen Participation)



参考

住民参加のはしご (シェリー・アーンスタイン1969)、
協働のデザイン (世古一博2001)



情報開示と情報共有



組織の継続と発展



さて、

どこから始めましょう。

5 . 写真



会場全景

市民・行政職員合わせて48名の方がシンポジウムに参加されました。

コーディネーターとパネリスト
左から、コーディネーターの手塚さん、
自然を見つめる会の中村さん、
みどり公園課 高井課長



パネリスト

左から、でこぼこの池谷さん、
教育支援課 西谷課長、
協働コミュニティ課 浜名課長

6. 「協働を考えるシンポジウム」アンケート抜粋（要約）

基調講演について

- ・ 協働とは、という基本的な部分が理解できた。
- ・ 具体的な内容で大変わかりやすい基調講演であった。
- ・ 具体的な例が良かった。活動がみえるように説明することが大事だと思った。
- ・ 今後もボランティアに参加していきたいと思った。
- ・ マイクの使い方が悪い。基調講演、音響調整がこんなに悪いホールは初めてだ。

パネルディスカッションについて

- ・ 様々な協働の事例が聞けて良かった。
- ・ 他市民活動団体の発表を聞き取りし、参考になる点が多くあった。
- ・ 軟らかい協働が欲求不満にならない手立ての1つと思った。
- ・ 今回と違う主体（市民活動団体×行政以外）の協働事例も今後は取り上げてほしい。
- ・ 各団体の活動紹介が少し長かった。協働にしぼった話にしたほうが良かったのでは？

全体を通してのご意見・ご感想

- ・ 手塚氏の進行が大変良かった。
- ・ パネルがとても充実していて、時間が長すぎるのでは思ったがあっという間に感じた。
- ・ 協働についてあいまいだったイメージが今回のシンポジウムでしっかり身についた。
- ・ もっと多くの団体のお話を聞きたいと思った。
- ・ 今後機会があればシンポジウムの開催してほしい。